



海外の自治体などの現場を学ぶ ～クリアシドニー事務所 インターンシップ研修～

(一財)自治体国際化協会シドニー事務所 元所長補佐 西 浩子 (三重県津市派遣)、
高橋 豪 (青森県黒石市派遣)、菊田 大介 (総務省派遣)、所長補佐 根木 勇也 (福岡県派遣)

クリアシドニー事務所では、所長補佐の職員研修の一環として、1週間から10日間程度、オーストラリアまたはニュージーランドの自治体などにおいてインターンシップ研修を行っています。

本インターンシップ研修は、クリアシドニー事務所での業務などを通じて知り合った当地の自治体などの関係者に自ら依頼して研修先に赴き、現地の職員に囲まれながら現場で業務を学ぶものです。現地事情や仕事の進め方などを直接学ぶことを目的とし、さらに、研修終了後まで続く人的ネットワークを構築することも期待されます。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックの影響により他州やニュージーランドへの訪問に困難を伴う中、インターンシップ研修の実施を諦めることなく、3名の所長補佐がシドニー市を州都とするニューサウスウェールズ州の自治体での研修を実現させましたので、その様子をレポートします。

菊田元所長補佐の体験談

2020年10月23日に行われたオンライン会議への参加を皮切りに、翌週からは現地を訪問し、30日までの間、ニューサウスウェールズ州内で州都シドニー市に次ぐ第二の拠点都市といわれるニューカッスル市でインターンシップ研修を行いました。

今回の訪問に際しては、同市の新型コロナウイルスパンデミックに対する取り組みを調査することを主目的としつつ、スマートシティへの取り組みやナイトタイムエコノミーの推進を含むセーフシティへの取り組みなどについても、複数の担当者からお話をうかがうことができました(同市の新型コロナウイルスパンデミックに対する取り組みについては、「自治体国際化フォーラム 376号」で詳しく紹介していますので、ぜひご覧ください)。



インターンを受け入れてくださった担当マネージャーの Simon Massey 氏 (左) と

また、訪問期間中は、2020年9月にオープンしたデジタルライブラリーや5メガワットの電力を供給するソーラーファームなどを見学させていただいたほか、オンラインストリーミング配信された市議会を視聴したり、同市の職員によるミーティングに参加させていただいたり、当地の自治体業務を多方面から学ぶことができました。



ソーラーファームにて



オンライン配信されたニューカッスル市議会の様子

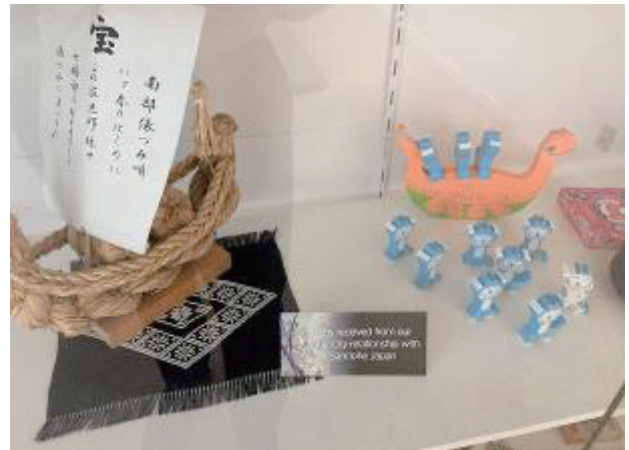
中でも、印象に残っているのは、同市の職場環境です。現庁舎へは、2019年に移ったばかりで、その際、既存の行政文書をすべてデータ化したため、現在は完全ペーパーレスになっているとのことでした。執務の様子を見てみると、デスク上には各自が持参したノート PC とつなぐモニター以外何もなく、職員は名刺すら持ち合わせていませんでした。また、固定電話もなく、連絡を要する際は、各自のスマホ、Microsoft Teams、Zoom、Skype などで行っているとのことでした。さらに各職員に割り当てられたデスクがないため、日によって座る場所が違っており、そのデスクは、すべて高さを変えられるようになっていて、実際に立ちながら仕事をしている人も複数見かけました。

当地の自治体業務の内容もさることながら、当地の自治体で実際に勤務している様子をうかがうことができ、非常に貴重な機会となりました。

高橋元所長補佐の体験談

2021年1月18日から22日にかけて、ニューサウスウェールズ州タムワース市でインターンシップ研修を行いました。タムワース市は、2021年は残念ながら中止となってしまいましたが、カントリーミュージックフェスティバルが毎年この時期に開催されていることで有名です。また、タムワース市は青森県三戸町と姉妹都市関係にあり、両自治体の間で活発に交流が行われています。

タムワース市滞在中は、廃棄物処理事務の担当者にインタビューを行い、タムワース市における廃棄物処理行政について話をうかがいました。タムワース市内の埋立処理場などの廃棄物処理施設の見学も行き、オーストラリアの自治体による廃棄物処理の現場を学ぶことができ



タムワース市庁舎内に展示されている三戸町からの贈り物

ました。タムワース市では、住民のごみの分別に課題があり、日本の数多くの自治体と共通の課題をオーストラリアの自治体も抱えていることが印象的でした。廃棄物処理行政を通じた日本とオーストラリアの自治体における交流拡大の潜在的な可能性も感じました。

また、タムワース市は空港を所有・運営しており、その利活用方策についてブリーフィングを受けました。オーストラリアの自治体の中には、Regional Airport（地方空港）を所有・運営しているところも多くあります。タムワース市を訪問した時期はコロナ禍で閑散としていましたが、普段は、飛行機パイロットの訓練所としても活用され、賑わっているとのことでした。

ほかにも、企業誘致のための分譲地とインフラの整備、経済振興の戦略、カントリーミュージックフェスティバルをはじめとする観光振興のためのPR戦略、タムワース市役所のガバナンスなど、当地の自治体業務を多方面から学ぶことができました。



タムワース市内の埋立処理場の様子



Director of Tamworth Airport の John Sommerlad 氏 (左) と

西元所長補佐の体験談

2021年2月8日から12日までの間、ニューサウスウェールズ州バイロン市でインターンシップ研修を行いました。バイロン市は観光地として有名で、また、ホームレス対策、環境政策、生物多様性保護政策において先進的な取り組みを行っていることでも知られています。

バイロン市滞在中は、さまざまな部署を訪問し、各部署の業務内容、現在の課題、今後の取り組みなどの説明を受けました。コアラ保護政策などのオーストラリア特有の課題への対応のみならず、災害対策、獣害対策などの日本の自治体と共通する課題への対応についても、学ぶことができました。

具体的には、地元産品販売促進の取り組み、コアラの食物として有名なユーカリの繁殖を支えるコウモリを守る取り組み、野犬による農作物の被害を防ぐ取り組みなどを、現地に足を運び、実際の様子を見ながら学びまし

た。また、観光地であることに伴う課題、例えば、シャワーやトイレを使う観光客が多いため水道代や清掃費が高額になること、ごみが多く捨てられることなどについても、ごみが散乱している現場などに足を運び学ぶことができました。



山火事（森林火災）の際の避難場所

さらに、バイロン市役所では、週に1度、職員が犬を連れて出勤できるというユニークな取り組みも行っており、日本の自治体で長く働いてきた私は日本との違いを実感し、驚いたことも多く、貴重な経験になりました。

現在はインターネットでほとんどのことを調べることができますが、実際に現地へ足を運ぶことにより初めて得られる情報も多くありました。また、職員に直接会って話を聞くことにより、ホームページ上では分からない内部事情などについても知ることができ、人脈を作ることもできました。

お忙しい中、ご対応いただいたすべての職員の皆様に心から感謝申し上げますとともに、多くの方々のご協力により得られた貴重な経験を無駄にすることなく、今後の業務の推進に役立てていきたいと考えています。



バイロン市庁舎



週1度の犬を連れて出勤できる日